

金融シェアードサービス

背景にある社会課題

欧米の金融機関では、支店の閉鎖が急速に進行しています。英国では2015年以来、採算の合わない4,000以上の金融機関の支店が閉鎖されました。そのため、郊外を中心に、現金取引を希望する人が金融サービスを受けられないことが社会問題化しています。英国政府は状況改善のために、地域に必要最低限の現金アクセスサービスを維持する内容を金融サービス・市場法案の一部として導入しました。北米でも同様の社会背景により、小売・飲食事業者が日々の売上金の入金に不便を強いられるケースが増加しています。そこで、金融サービスへの新たなアクセスポイントとして期待されているのがリテール店舗です。

Voice

イギリスの町ナレスポロでは、銀行支店の閉鎖が続き、住民は現金を預けるために車で40分かけて移動していました。この状況はナレスポロだけでなくイギリス国内で多く見られます。そのため、2022年に国内の金融機関Newcastle Building Societyが銀行サービスを人々に提供するためにOneBanx社と提携した際は、全国紙等で大々的に取り上げられました。現金を使う人々や企業に手軽さと利便性を提供するこのサービスは、地域のライフラインとなりました。私はこのサービスを誇りに思っており、今後、他の地域にも広げていきたいと考えています。



Chairman of
OneBanx
Javed Anjum

解決策

グローリーグループであるOneBanx社は、金融シェアードプラットフォーム事業を展開するスタートアップ企業です。1拠点で複数銀行の現金の入出金取引に対応できる金融シェアードプラットフォームを金融機関に提供し、地域の金融包摂を実現しています。また、出資先であるClip Money社は、米国・カナダのスーパーやショッピングモールなどの施設内に、小売・飲食事業者の売上金入金を受け付けるシェアードポストを設置し売上金入金サービスを実現するとともに、取引履歴が確認できるダッシュボード機能や釣銭用現金の注文・デリバリーサービスを提供しています。これにより、小売・飲食事業者の業務効率化と利便性向上が期待されます。



シェアードサービス
拠点イメージ



シェアードポスト設置イメージ
(カナダのスクエア・ワン・
ショッピングセンター内)



ポスト投函前のアプリ画面イメージ
(クラウドベースの
プラットフォーム)

インパクト

社会的インパクト

- 支店閉鎖が地域住民にもたらす影響を最小化
- 小売・飲食事業者の売上金入金業務の効率化と利便性の向上に貢献
- 金融機関は不採算支店の閉鎖や夜間金庫の廃止などの経営効率化策の推進が可能

当社グループへの経済的インパクト

- 銀行支店業務のシェアードサービスを利用する提携金融機関及び小売・飲食事業者の拡大を図ることで、新たな手数料収入の創出につなげる
- 当社グループの製品・サービスと組み合わせることで、既存製品の売上拡大につなげる

事業機会の創出

シェアードサービスの核となるOneBanx社及びClipMoney社の技術とソリューションを当社グループの製品・サービスと組み合わせることで、さらなる付加価値を創出し、事業拡大につなげます。また、シェアードサービスを当社グループが提案するソリューションのラインナップに加え、金融機関や小売・飲食事業者の経営効率の向上に一層貢献していきます。金融機関の支店統廃合は、日本をはじめとする世界各国でも増加しています。当社グループは、誰もが取り残されることなく金融サービスにアクセスできる「金融包摂」に資する金融シェアードサービスの拡大を進めていきます。